

干潟の生態系サービスの分類と経済価値評価（案）

（2014年3月11日版）

- 本資料では、TEEBの分類に基づいて干潟の生態系サービスを4つの大分類及び22の小分類に分け、既存の経済価値評価または定量評価の事例をもとに各生態系サービスの経済価値を示した。
- 本資料に掲載した全国の干潟の経済価値は、地域差（干潟の立地や底質状況、植生や水文条件、周辺の土地利用などの社会的条件など）や市場の価格変動等を十分考慮せずに評価したものも含まれる。
- 評価の考え方及び評価方法、根拠等については資料3-3に整理した。
- 生態系サービスの内容が特定できない、評価手法が確立されていないなどの項目については網掛けとした。
- 上記のとおり、干潟の有するすべての生態系サービスを評価できているわけではなく、今回評価できたのは干潟の価値の一部であることに留意が必要。

生態系サービスの分類		生態系サービスの内容例	全国の干潟の経済価値(／年)	評価原単位(／ha／年)	経済価値評価の根拠等(資料3-3の通し番号)
供給	食料	水産資源の供給	907 億円	185 万円	B-1
		[アサリの漁業生産額]	95 億円	19 万円	
		[ハマグリ漁業生産額]	10 億円	2 万円	
		[ノリの漁業生産額]	801 億円	163 万円	
		[その他の魚種の漁業生産額]			
	淡水資源	海水の淡水化利用			B-2
原材料	貝製品、美容品などの生産			B-3	
遺伝子資源				B-4	
薬用資源				B-5	
鑑賞資源	鑑賞用動植物(クビレズタ、アカテガニ、ベンケイガニなど)の供給			B-6	
調整	大気質調整	硫黄酸化物、窒素酸化物濃度の調整			B-7
		潜熱効果による気温調整			
	気候調整	二酸化炭素の濃度調整			B-8
	局所災害の緩和	波浪の減衰			B-9
	水量調整				B-10
	水質浄化	窒素、リンの除去	2963 億円	602 万円	B-11
		[窒素の除去]	2963 億円	602 万円	
		[リンの除去]	1932 億円	393 万円	
		有害物質の無害化			
	土壌浸食の抑制				B-12
地力の維持				B-13	
花粉媒介				B-14	
生物学的防除	食物連鎖による赤潮抑制			B-15	

生態系サービスの分類		生態系サービスの内容例	全国の干潟の経済価値(／年)	評価原単位(／ha／年)	経済価値評価の根拠等(資料3-3の通し番号)	
生育・生息地	生息・生育環境の提供	干潟の生物多様性の保全	1954 億円	397 万円	B-16	
		魚介類の産卵場、採餌場、避難場の提供	カレイ類の漁業生産額	211 億円		43 万円
			クルマエビの漁業生産額	22 億円		4 万円
			遺伝的多様性の保全			
文化	自然景観の保全	多様な景観の創出			B-18	
		希少野生生物等が生息する景観				
	レクリエーションや観光の場と機会	潮干狩り	44 億円	9 万円	B-19	
		自然観察や散策など、観光利用の場				
	文化、芸術、デザインへのインスピレーション	地域行事や祭りの開催			B-20	
		絵画や文芸などの創作				
	神秘的体験				B-21	
	科学や教育に関する知識	環境教育の場としての利用			B-22	
科学研究の場、材料としての利用						